

大強度陽子加速器施設評価作業部会（第1回）

議論のまとめ

●施設の整備・運用

- ・利用体系については中性子・ミュオンだけでなく、ハドロン等の基礎分野についてもビームの利用だけでなく、検出器の開発などで産業転用できる技術が多くある（放射線耐性など）ため、基礎研究から産業界に広がっていくような枠組みが必要。
- ・優先課題については早めにFA等に宣伝しておく必要がある。
- ・産業利用促進課題には期待している。今までは理論的な形に落とし込んで成果公開で実施していた研究課題も、実条件に近い形で提案できるようになる。

●施設運営

- ・有償利用で支払った利用料がJ-PARCに還元し、自分たちの利用料がどこに役立っているのかが見える形にしてほしい

●中性子・ミュオン利用の振興

- ・学生がJ-PARCで実地経験を積むことは大きな効果。こうした学生たちが、いまどのような進路についているか、産業界にどう貢献しているかを示せばよい指標になるのではないか
- ・技術伝承について、口頭で教えるだけでなくAI等を活用してシステムチックに伝えることができる取組が必要。

●将来に向けた高度化等

- ・設計建設期に決めたバランスもあるかと思うが、現在の各施設の整備のバランス、将来計画を示してほしい。
- ・クライオ電頭がX線をも凌駕しようとしている中で、ミュオン顕微鏡は大きなインパクト。PossibilityではなくFeasibilityを示して欲しい。
- ・J-PARCは施設としてどのような目標（青写真）を描いているのか。ビームの強度の増強を超えた将来像を検討していく必要があるのではないか。

●その他

- ・世界の情勢を踏まえたJ-PARCの立ち位置・目指すところを示して欲しい。
- ・国際連携については、中性子ムラだけで閉じるのではなく、もうすこし外側のコミュニティも参加できるようオープンにしてほしい。
- ・国民の税金を使っているので一般への周知も重要。素人とまでは言わず、これについても外側のコミュニティにつなげていく必要があり、馴染みの薄い学会に押しかけていくことなどが必要。

以上